

3. 流域の社会状況

3.1 関係市町村・土地利用

(1) 関係市町村

大和川流域は大阪府、奈良県の 21 市 15 町 2 村にまたがっている。関係市町村を以下に示す。

表 3.1 関係市町村

大阪府	市	大阪市 堺市 八尾市 富田林市 河内長野市 松原市 柏原市 羽曳野市 藤井寺市 大阪狭山市
	町	河南町 太子町
	村	千早赤坂村
奈良県	市	奈良市 大和高田市 大和郡山市 天理市 橿原市 宇陀市 桜井市 御所市 生駒市 香芝市 葛城市
	町	平群町 三郷町 斑鳩町 安堵町 川西町 三宅町 田原本町 高取町 上牧町 王寺町 広陵町 河合町 大淀町
	村	明日香村

(2) 土地利用

大和川流域の土地利用は、大都市周辺部では農地から宅地への転用が進んでいる。

平成 17 年の土地利用形態を見ると、山林等が約 35%、水田や畑地等の農地が約 30%、宅地等の市街地が約 28%、そのほか約 7%となっている。昭和 33 年と比較すると、田畑が約 7%、山地が約 7%減少したのに対し、宅地等の市街地が約 15%増加している。

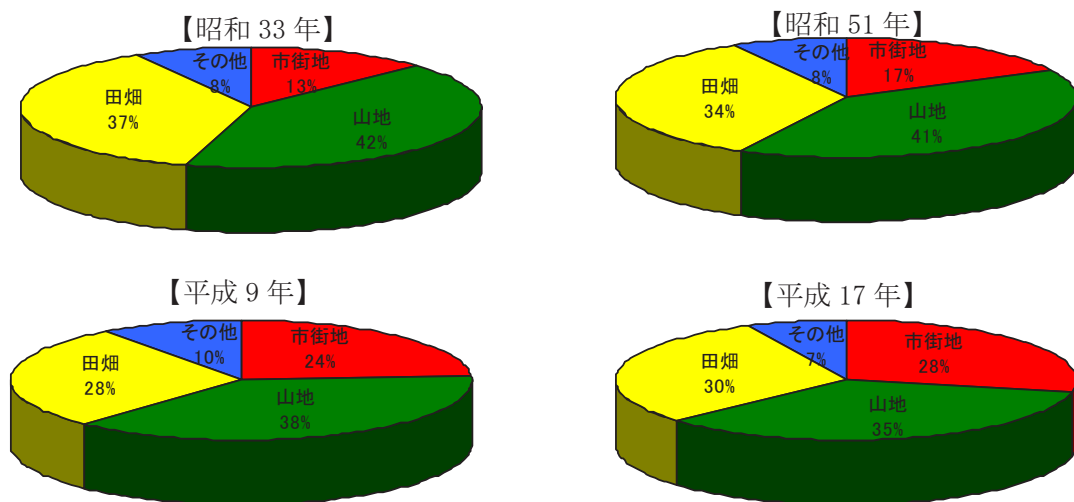


図 3.1 大和川流域全体の土地利用状況（出典：大阪府統計年鑑、奈良県統計年鑑）

人口・資産は、大阪平野・奈良盆地に集まっている。

大和川流域の地目の変遷は、昭和 33 年の土地利用図と平成 17 年の土地利用図を比較すると、市街地が増加し、流域の都市化が進展していることがわかる。

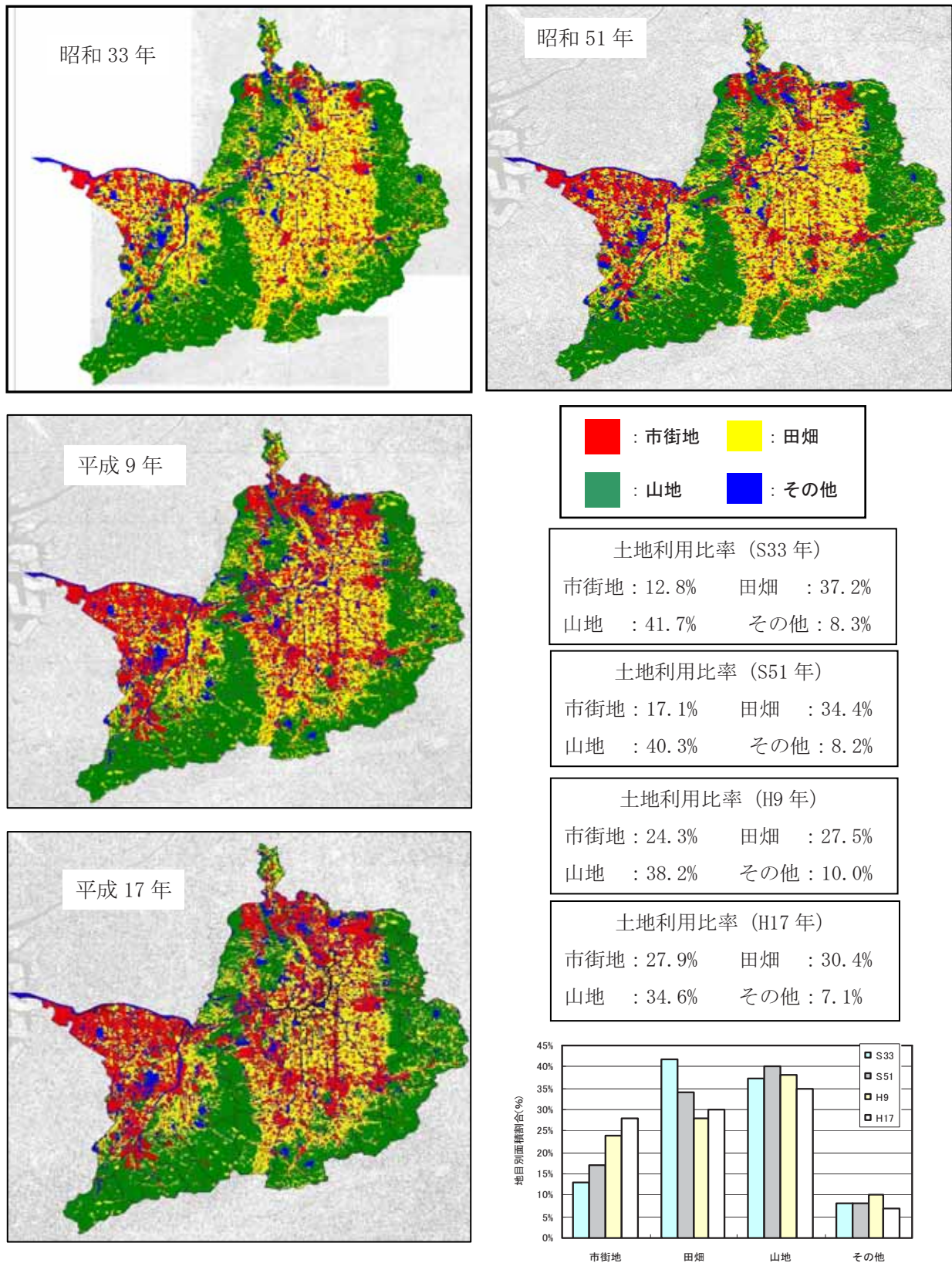


図 3.2 大和川流域全体の土地利用の変遷

3.2 人口

大和川水系における流域関連市町村の総人口は315万人(平成17年現在)に及んでいる。これは全国の総人口1億2,777万人(平成17年現在)の約2.5%にあたり、近畿の総人口2,089万人(平成17年現在)の15%を占めている。

流域内には約1,070km²の区域に約215万人の人口が暮らし、人口密度は2,010人/km²、想定氾濫区域には約423km²に約393万人が暮らし、人口密度も約9,291人/km²と高い。堤防の決壊等で氾濫した場合には被害が大きくなる可能性がある。

大和川の流域は大阪府、奈良県にまたがり、これら府県別の人口(流域関連市町村分、大阪市を除く)の推移を整理したものが下図である。その人口動態は、昭和25年の約116万人から平成17年の50年間に約200万人増加し、実に2.7倍の増加となっている。特に昭和30年から昭和50年までの20年間の増加が激しく、近年は横ばいとなっている。

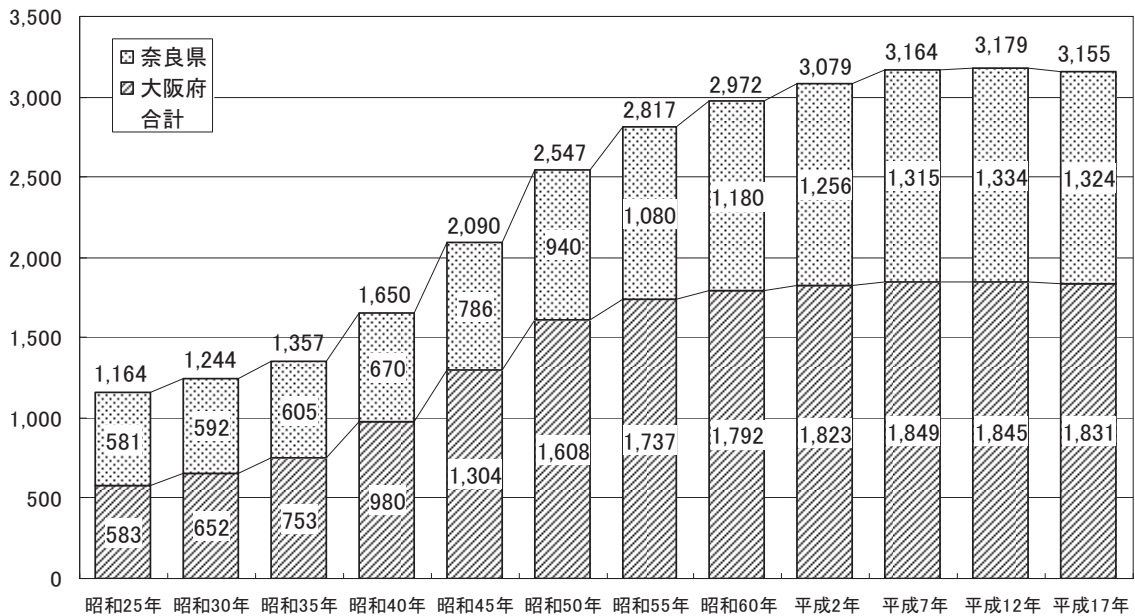


図 3.3 流域府県人口(流域関連市町村の合計)の推移

(出典：国勢調査)

3.3 産業

大和川流域内の内、河内平野側は大阪の都市圏域として古くから都市化し、奈良盆地でも都市化が進んでいる。このような影響を受け、産業・経済の発展が著しい。大和川水系の産業別就業人口（平成 17 年度）は、第三次産業が 71%と最も多く、次いで第二次産業の 27%となっている。しかし、第一次産業はわずかに 2%であり、当流域が阪神工業地帯の一端を担っている商業・工業の集積した地域であることを示している。産業構造の推移を就業人口でみると、第一次産業と第二次産業は減少傾向にある。一方、第三次産業は人口の集積、産業構造の変化に伴って大幅に増大している。

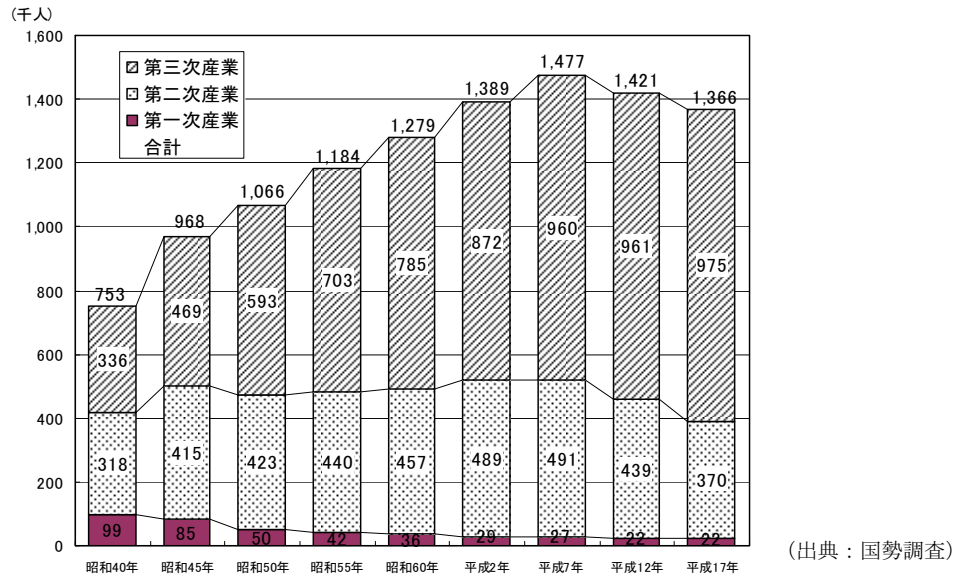


図 3.4 産業別就業人口（流域関連市町村の合計）の推移

流域関連市町村の製造品出荷額等をみると昭和 50 年に約 3.3 兆円であったが、平成 2 年では約 7.9 兆円と約 2.4 倍になり、平成 17 年では約 6.7 兆円と概ね 2 倍になっている。また H17 年の製造品出荷額は全国の総出荷額 298 兆円（平成 17 年速報値）の約 2.3%、近畿圏 57 兆円（平成 17 年速報値）の約 12%を占めている。

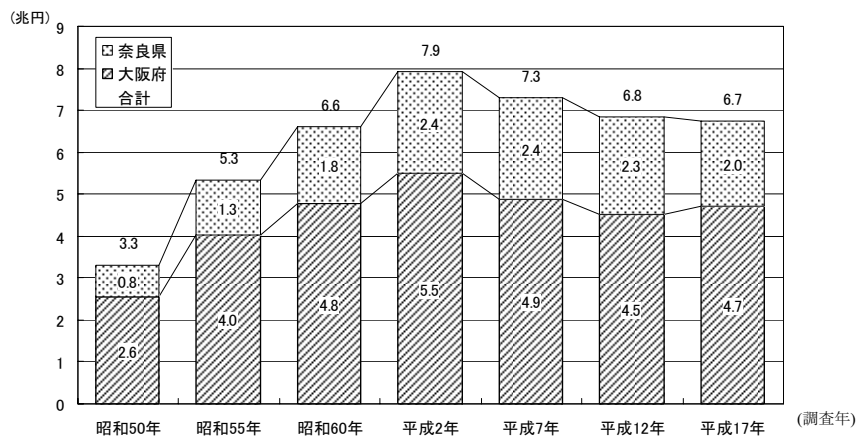


図 3.5 製造品出荷額等（流域関連市町村の合計）

出典：大阪府統計年鑑、奈良県統計年鑑、奈良県ホームページ <http://www.pref.nara.jp/>

平成 17 年 工業統計速報データ（平成 18 年 12 月 27 日【訂正版】）

河口域の臨海工業地帯は、阪神工業地帯の拠点として、鉄鋼業などの重工業が発達している。下流域の堺市では、刃物製造や鍛冶技術を生かした自転車製造が盛んであり、業務用刃物の生産は、全国の90%を占める^{注1)}。中流部の大和郡山市では、金魚や錦鯉などの養魚業、奈良市では天平時代から続く伝統的な製墨が行われている。大和郡山市の金魚の生産は全国2位で、シェアは40%となっている^{注2)}。奈良市の製墨は全国の書道家、水墨画家等に対し、その需要の95%を供給している^{注3)}。

流域内(奈良県)には、数多くの寺社仏閣、史跡、名勝が存在し、文化的・歴史的資源に恵まれ、国内だけでなく世界から数多くの観光客を集めている。奈良県の外国人の訪問率は、全国の訪問率の4.9%と全国で11番目となっている。^{注4)}

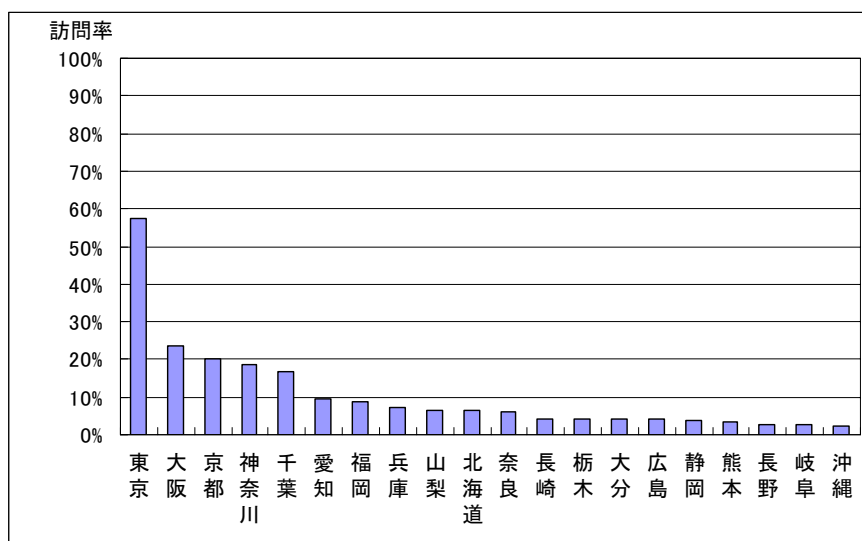


図 3.6 外国人訪問率

注1) 出典：堺刃物商工業協同組合連合会 HP

注2) 出典：大和郡山市 HP 観光情報

注3) 出典：奈良の風景 100 選「奈良の墨づくり」HP

注4) 報道資料 J N T O 訪日外客実態調査 2006-2007 (外国人旅行者の国内訪問地データ) 調査結果速報

3.4 交通

大和川流域には、大阪府と奈良県における重要な鉄道、道路網及び港湾が位置している。

流域内の交通としては、鉄道ではJR大和路線・奈良線・桜井線・和歌山線や近鉄奈良線・大阪線・橿原線・生駒線・田原本線などがあり、道路は阪神高速道路の湾岸線・堺線・松原線をはじめ近畿自動車道、阪和自動車道、西名阪自動車道、南阪奈道路、京奈和自動車道、第二阪奈道路、国道24号、国道25号、国道26号、国道168号等の基幹交通施設がある。さらに、河口部左岸には特定重要港湾である堺泉北港が位置し、右岸には指定特定重要港湾である大阪港と重要港湾阪南港が位置し、いずれも阪神工業地帯の中核港湾のひとつであり、本流域は陸海交通の要衝となっている。

これら主要交通網は、氾濫区域内に位置しているものもあり、これらの機能を守ることは、社会経済活動を保持するうえで重要となる。

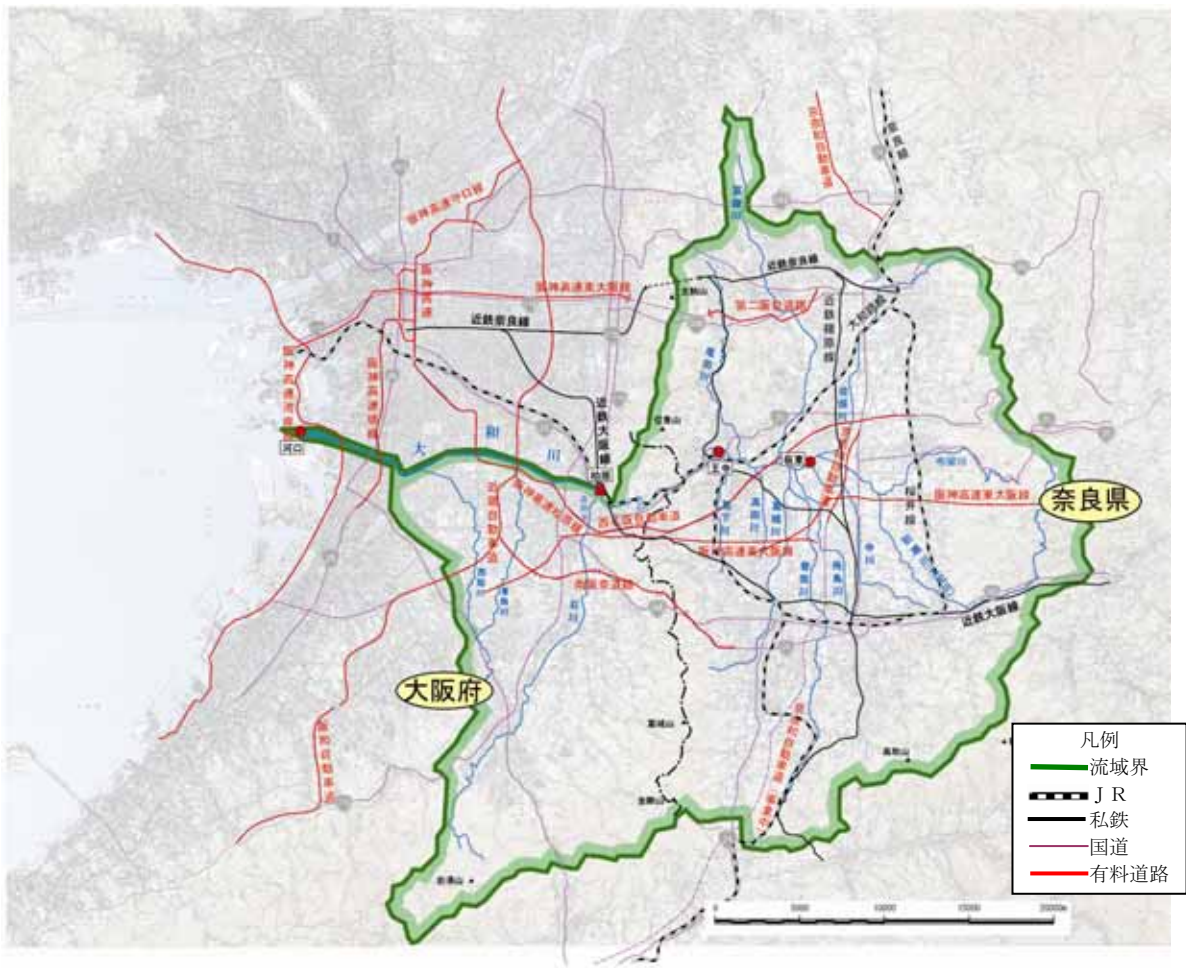


図 3.7 交通網